

平成24年10月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	平成24年10月23日 (火曜日)		
2 開会及び閉会	開会	14時00分	
	閉会	15時15分	
3 出席委員	委員長	渡辺勝志	
	委員	塩田澄子	
	委員	曾田佳代子	
	委員(教育長)	山脇健	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	水野博宣	教育次長	橋本拓治
統括審議監	鈴木康義	審議監(学校教育担当)	福島治子
審議監(生涯学習担当)	直本正明	教育企画総務課長	長瀬尚樹
学事課長	山本孝治	指導課長	天野和弘
指導課教育支援担当課長	山崎克磨	生涯学習課長	丸川康一
文化財課長	乗岡実	次長(オリエント美術館長)	谷一尚
事務局(教育企画総務課課長補佐)	高木宏	事務局(教育企画総務課主査)	小西一郎
5 議題及び結果			
第27号議案	教育相談室・適応指導教室の在り方について		原案可決
6 教育長等の報告	[平成24年9月15日(土)～平成24年10月12日(金)]		
9/15～9/16	防災キャンプ(高島)		生涯学習課
9/15	幼稚園の先生と遊ぼう		文化財課
9/15	埋蔵文化財講座遺跡が語る岡山の歴史第4回		文化財課
9/22	特別展「うつわとこころーフォルムとデザイナー」の開催(会期11/11まで)		オリエント美術館
9/22	特別講演会「西アジア先史土器の装飾美」(講師:小高敬寛 早大助教)		オリエント美術館
9/25	いきいき学校園づくり		指導課
9/26	いきいき学校園づくり		指導課
9/27	ミニコンサート		文化財課
9/27	いきいき学校園づくり		指導課
9/28	いきいき学校園づくり		指導課
9/29～9/30	自然体験リーダー養成講座		生涯学習課
9/29	コンサート「リトモ・フェリーチェ・トリオ コンサートツアー2012秋」		オリエント美術館

10/1	いきいき学校園づくり	指導課
10/4	いきいき学校園づくり	指導課
10/5	いきいき学校園づくり	指導課
10/6	コンサート「フルートとチェンバロによる古楽と現代のホットスポット」	オリエン特美術館
10/7	ワークショップ「きらめくラスター彩陶器」(講師:白石齊 陶芸家)	オリエン特美術館
10/10	いきいき学校園づくり	指導課
10/11	いきいき学校園づくり	指導課
10/12	西大寺学区避難訓練	指導課

教育支援担当課長	○ (先日の強盗致傷事件による中学生の逮捕について、状況を報告) 現在捜査中であり詳しい状況はわからないが、報道されている内容は衝撃的であり、被害者の方には大変なご迷惑をおかけした。また、市民の皆さんにも大変なご心配をおかけして、教育委員会としても大変重く受け止めている。今後は、これまで以上に学校と警察等関係機関と連携を深め、規範意識の醸成や問題行動の未然防止に努めていきたい。
曾田委員	○ 店長の様子はどうか
教育支援担当課長	○ その後の状況はまだ情報として持っていない。怪我の状況として、肋骨骨折のことしかわかっていない
曾田委員	○ 社会的な罰則とか少年法とかいろいろなことが絡んでくると思うが、道義的に被害にあわれた方に対して、子どもの立場として、親の立場として何ができるかまでを完結させたほうが良いと報道を見て感じた。
委員長	○ 少年には弁護人は付いているのか。
教育支援担当課長	○ まだ情報把握できていない
委員長	○ おそらく国選が付いているのではないかと。情報があれば教えてほしい。怪我也重たく、強盗致傷というかなり重たい事案、今後注視していきたい。
指導課長	○ (学力・学習状況調査の結果の取りまとめについて、報告)
曾田委員	○ 県が学力向上のために、幼・小・中学校版のリーフレットを作っていると思うが、政令市は該当するのかわからないのか。
指導課長	○ 学力関係のものは、ほぼ全部配られている。
曾田委員	○ 現場で見たことがないということも聞いたが。
指導課長	○ 部数が少ないので、全職員が見ていないかもしれないが、配られている。
曾田委員	○ 政令市になったので、岡山市が独自に作る方法もあるが、多岐にわたっているときには、県の冊子などを活用しても良いのではないかと。家庭学習や学校の授業など分けて書いていて、見開きのリーフレットが読みやすかった。そういうものを家庭向けに配るのは有効ではないか。
塩田委員	○ 説明会に使った冊子は、各学校の全ての教員に行き渡っているのか。
指導課長	○ 全ての教員に行き渡っているかどうかははっきりと申し上げられないが、結果については当然見てもらうようお願いしている。
塩田委員	○ 一番最後に書かれてある中学校の取り組みなどは、努力しているところが見えるので、こういう努力があって学力向上ができるということを皆に認識してもらうためにも伝えてもらう必要がある。
曾田委員	○ 中に出てくるコラムの実践は、岡山市内の中学校か他都市の例か。
指導課長	○ 平成21年度と平成24年度の比較の中で、中学校において明らかに学力を伸ばす結果が出ている学校に指導主事が訪問して、どういった取り組みをしたか確認したものであり、岡山市の実例である。
曾田委員	○ 学校現場も実例としてきちんと読むと思うが、基本の、こうやれば学力が上がるというような内容に加えて、今後の新しい問題に対応するような授業の進め方とか、家庭教育で効果が上がっているかなどをアレンジメントしたものを配ったほうが参考にしやすいかなと思う。学校現場も忙しいので、じっくり例にならうというより、少しアレンジメントして、コンパクトにさせていただけたらと思う。
委員長	○ こういうコラムだけで伝えるのではなく、担当教員で集まってざっくばらんな会はあるのか。
指導課長	○ 総則部会やその他の部会もあるが、校長先生に伝えたり、いきいき学校園づくりなどで訪問した際にこういった話を紹介することもできると考えている。
委員長	○ 16ページの家庭学習に関する、平成21年度の小学6年生と平成24年度の中学3年生の比較で、6年生のときは家で計画を立てて勉強していた人が2分の1いたのに、中学3年生になると3分の1に減っているという意味か。
指導課長	○ 中学校で、38.7%に落ちたということになる。ただ、国との差で見ると、

	大きく差がない。全国的に中学校になると家庭学習に関するものが低くなっている。
委員長	○ 経験から小学校で予習・復習しなかったものが、中学校になってやるようになって数値が上がると思っていたが、全国的に下がるという傾向にあるということか。何か原因はあるのか。
指導課長	○ 明確な原因はわからないが、家庭学習をしている人数が減る、あるいは一人当たりの時間数が増えていない場合が多いのかなという想像しかできない。
塩田委員	○ 気になったのは21ページの中学校の「家で学校の授業の復習をしていますか」が全国に比べて10ポイントも低いというところ。低いパーセントの中で、更に10ポイントも低いというのは、全国と比べてもかなり復習の時間が短いのかなと思うが、これについてはどういう分析をしているか。
指導課長	○ 明確な原因はつかめていない。ただ時間の使い方として、「家」でとあるので、家以外の学習があるのか、あるいは読書が多いので読書に時間を取られているのか。いずれにしても、かなりの有為差と思える差があるのでこの部分は我々も考えていかなければならない
曾田委員	○ 質問紙の部分でもう少し掘り下げて傾向をつかんだらどうかと思う。例えば、自尊感情に関わる項目で「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか」というのは、粘り強い子が多いと捉えてよいのか。わたしが聞きたいとすると、うれしかったことの内容で、子どもたちはどんなことにずっと最後までやりとげていると実感しているのかということ。そういう掘り下げ方を学校現場にも伝えて、多角的に勉強する環境をサポートしないと、直接的な授業改善だけでは功を奏さない。ポイントを挙げるのが目標ではない。生徒指導の問題も、粘りが無いから我慢強くないから出てくる現象もあると思うので、折角これだけのデータがあるのだから、あとの使い方を教育委員会としてサジェスションがあったらいいし、お願いしたい。
塩田委員	○ 子どもたちが、本気でやっていないということ保護者から聞いたことがある。そのため、白紙回答が多いのかと思ったが、子どもたちはこの学力テストをどう捉えているのか
指導課長	○ 中学校の定期考査などは、自分の成績に直結することを子どもたちは良く分かっている。だから、そこはがんばる。学力テストについて、学校は、そういう意味合いはないし、成績に直結するものではないという説明はしている。それがどういう心的影響を与えるのかという分析は行っていないが、そういった違いがあるのは事実である。
塩田委員	○ でも皆さんの学力を知る上では、本気でやってほしいということを伝える取り組みが必要。成績とは直結しないけど、今の皆の持っている学力を正確に知るために本気で取り組んでもらわないと正しい判断ができない、というのがあって思うが。
曾田委員	○ 成績には関係ないが、やる時にはやるんだ、というのを学校教育では教えたいところ。成績がつくからがんばるんだとか、通知表がどうだから動くという子どもではさびしい。
教育長	○ 配るだけでなく、そこで一言がんばろうと声をかけても違う。
曾田委員	○ 受ける身構えとかを話してもずいぶん違うのでは。
委員長	○ 先生が言うことはないと思うが、保護者が成績に関係ないからと言うとよくない。学力テストはいい問題が出ているから、今後もいろんな局面でこういう問題が出るからその練習になる、ということで動機付けを保護者も含めてやってもらいたい。そういう声が出ているのは初めて聞いたがあまりいいことではない。
委員長	○ これは分析とか結果が出ているが、何かこれに基づいて取り組みを始めたとか、始めかけているとかいうことはあるのか
指導課長	○ 好事例を集める作業は既に始めている。
委員長	○ 子どもが学校から県の教育通信をもらってきたが、竹井教育長の緊急メッセージ「家庭学習を実施しましょう」などのメッセージが出ているが、岡山市としても来年度の取り組みを始めるということはあるのか。
指導課長	○ 具体はないが、家庭学習は今までどおりかなり課題が多いので、こうしたものを少しでも改善していけるようなリーフレットの作成も検討していきたい。
曾田委員	○ そのリーフレット作成にはすごい手間ひまがかかる。真実は一緒なので、いろんな資源を補完し合うようなシステムができたらい。政令市だから独自で作るという部分と、これは岡山県をあげて緊急課題として一斉にすることだから、補完し合うということで県の作成したものを使う。その辺のネットワークの組み方も研究したらいいのではないかな。新しく作るエネルギーを他のことにもかけられる。

委員長	○ 学力調査も今後の授業改善、家庭学習の改善に活かす意味合いがあると思う。分析したことを有益に活用していただきたい。順位が云々というところだけ一喜一憂するのではなく、還元するという形で活かしてもらいたい。 (事業報告)
塩田委員	○ オリент美術館ではいろいろな催しをしているが、ワークショップはどのような内容か。
オリент美術館長	○ ラスター彩という特殊な上薬を使った陶器を、受講者に絵付けをして作ってもらっている。
塩田委員	○ 1日かけてか。
オリент美術館長	○ 焼物は焼いているので上絵だけつけてもらっている。2時間ぐらい。あと陶芸家が自分の窯で焼いて受講者に返している。
委員長	○ これは「うつわとこころ」の関連事業か。
オリент美術館長	○ そうである。
委員長	○ 先日見に行かせてもらってが、10月12日現在で1,442人というのは好調なのか。
オリент美術館長	○ この時期としてまあまあである。もっと入ってもらいたい。
曾田委員	○ 「幼稚園の先生と遊ぼう」の就学前の子どもというのは、幼稚園在園の子どもか。
文化財課長	○ もちろん誰が来てもよいが、広報の連絡として「幼稚園の先生と遊ぼう」という催し物は、就学前の子どもを対象にしている。
曾田委員	○ シリーズとして何回か行うのか。1回限りか。
文化財課長	○ 「幼稚園の先生と遊ぼう」というタイトルの催し物は、結果的にはかなり繰り返しやってきている。先生方に、ボランティアでお手伝いに来ていただいている。八角寄席、音楽コンサート、そういう焦点の絞り方と考え方の中で事実上のシリーズである。
曾田委員	○ 目的は小学校にうまくつなぐためというのではなく、集団で専門家の先生に遊んでもらうという趣旨か。
文化財課長	○ 一義的には文化財としての活用であり、もちろん就学前の子どもたちの情操教育もあるが、子どもたちに文化財を身近に感じてもらうというのが一番文化財課が主催してやっている位置づけである。
塩田委員	○ 自然体験リーダー養成講座の一般参加者は、どういった方が参加されているのか。リーダー養成講座を修了した方がどういう活躍の場があるのか。
生涯学習課長	○ 大学生が概ねで、主婦、高齢者の方もいる。リーダー研修は、1泊2日で5回あるが、修了したら修了証をお渡しして、公民館、各地域、子ども会なども含めて自然体験活動をしているので、そこへ出向いて指導してもらっている。
曾田委員	○ いきいき学校園づくりは、2学期はシーズンで毎月多いが、それぞれの中学校区で動かれていて、共通性のある課題はかなり出ているか。
指導課長	○ いきいき学校園づくりが行われているのは、4年をサイクルに何をしているかということ、中学校区で目指す子どもということで、目指す子ども自体はそれぞれ別だが、大元の部分は岡山市が打ち出している部分なので、そういう部分では共通している。
曾田委員	○ 授業改善など共通したものがあつたら、個々の中学校区に活かすのだけではなく、全体にフィードバックしてはどうか。何箇所か見せてもらったが、少人数指導のあり方は参考になることがいっぱいある。学校によっては、習熟度に分けてはいるが、人数が少ないクラスサイズが変わっただけの少人数をしているところもあるし、少人数の習熟度の発展と基礎の綿密な授業展開をしているところもある。同じ教材でも中身の持っていく方が違うなど、参考になる例がある。すごくエネルギーを使って効果的に中学校区でやっていることをもっと全体にフィードバックして、課題を出していけば同じ努力をしても効果が違ってくる。
委員長	○ いきいき学校園づくりで授業を見た後の協議会では、教育委員会の方や先生方がその日の授業を批評する、意見交換があると思うが、岡山市全体としてこういう教え方になっている、この中学校区の生徒の雰囲気はこうだ、そういった共通の課題が学区ごとや岡山市全体としてあるのか。
指導課長	○ 共通する課題という面では難しい。ただこの学校は、こういうところができていないとか、この学校区の子どもたちは、ここの部分が育ってないとか、そういう部分では共通性が出てきている。ただ全市的に同じということではない。それだからこそ岡山市では中学校区ごとにやっている。
曾田委員	○ 学校が違えば子どもも違うし、保護者も違う。その中で授業がわかりたいとか、授業にきちんと臨みたいとか、ちゃんとした学校生活を送りたい、などが共通部分だと思うが、そういうところでの工夫が授業に活かされて、功を奏しているも

委員長	○ のはフィードバックしてもらいたい。
生涯学習課長	○ 防災キャンプはかなりの方が参加されているが、どんな様子だったのか。またこれはどの地域でもやっていくのか。
委員長	○ 7月下旬からはじめてここで9箇所目になる。高島小では150人ぐらいで、小学生が50人ぐらい、それから保護者、地域の高齢者が参加している。非常持ち出し袋を各自持ってきて、いろいろなものを災害時には持ち出すんだということをお互い勉強したり、新聞紙で食器を作ったり、炊き出し・消防起震車の体験を行っている。
委員長	○ 1年で11箇所か。
生涯学習課長	○ 今年度は9地域で11回になる。
委員長	○ 来年以降もやるのか。
生涯学習課長	○ あと2年で全中学校区でやっていく計画をしているが、財政当局からもいい事業だから、前向きに考えてくれるという話も聞いているので、来年度でやってしまうかもしれない。
委員長	○ いい取り組みだと思う。
塩田委員	○ 避難訓練はどういう内容か。
教育支援担当課長	○ 保育園、幼稚園、西大寺中学校の3つの合同の予備訓練である。本番は11月8日に地域の方を含めた合同訓練になる。

## 7 議 事 の 大 要

委員長	○ 10月定例岡山市教育委員会を開催する。
委員長	○ 本日の傍聴希望者は1名いる。傍聴を許可してよいか。
全委員	○ <承認>
委員長	○ 傍聴を認める。
委員長	○ 日程第1、会期は本日1日限りとしてよいか。
全委員	○ <承認>
委員長	○ 日程第2、9月定例会の議事録に問題はないか。
全委員	○ <承認>
委員長	○ 日程第3、教育長等の報告、事業報告について質問はないか。 (会議録6「教育長等の報告」に記載)
委員長	○ 議事に入る前に会議の公開・非公開について諮る。日程第4の第28号議案は、個人に関する情報を含み、会議を公開することにより個人の権利利益を害するおそれのある事項として会議規則第9条第1項第5号に該当するため非公開としてよいか。
全委員	○ <承認>
委員長	○ それでは先の議題は非公開とする。
委員長	○ 日程第4、第27号議案を説明願う。
教育支援担当課長	○ 説明(議案第27号の資料に沿って説明)
委員長	○ 質問、意見はないか。
塩田委員	○ 9月に地元への説明を行っているが、どのような反応であったか。
教育支援担当課長	○ 実際は10月にずれ込んでしまったが、愛育委員、栄養委員、その他施設利用団体の方に説明した。福祉関係の施設が入っているのでボランティア活動や交流ができればとてもよいことではないかとか、岡山市に合併する以前からその施設を使用している団体は、だんだん自分たちが使用する自由度が小さくなってきている点は残念に思うという声もあったが、概ね了解をしてもらった。
曾田委員	○ 瀬戸の使える場所は、一宮、レポートに比べて格段に増えるのか
教育企画総務課長	○ 予想している子どもたちの通室人数はそこまで大きくはないがこの施設の特長を活かした活動ができるかなと思っている。キャパ的には今の施設と同等か若干少ない。
曾田委員	○ 人的には同じぐらいか。
教育支援担当課長	○ 1~2名人少ないぐらいで考えている
曾田委員	○ JRから近いし便利のいいところだと思う。牧山より階数が多いし、希望を持っているが。
教育支援担当課長	○ 中区辺りからもJRを利用して通いやすい子どもたちが増えるのではないかと思う。
委員長	○ 直接関わりがないかもしれないが、最近報道されているいじめが原因で不登校になって、頑張って勉強してテストの成績は良いが内申書が良くないので高校にいけない子どもがいるということが話題になっていたが、ここに通った場合には

教育支援担当課長	○ そういう内申の対応ができるのか。
橋本教育次長	○ 実際に適応指導教室に通っている子どもは、その実績を入試の資料に記入するのでがんばっている様子は高校に伝わる。
委員長 教育長	○ 基本的に出席の扱いになる。内申書の行動評価については、担任を中心に適応指導教室の職員と連絡を取り合って適応指導教室の様子を反映することになるので、家から出ることができない子どもにとっては適応指導教室に行けるほうがはるかに有利だし、前回報告したように適応指導教室からの進学率は非常に高い状態にある。
委員長 教育長	○ こういう教室があるので、ぜひ通ってほしいということになる。
委員長 教育長	○ いじめが原因で不登校になって、それが欠席になって、それが内申書に載ることによって、欠席なんだということだけが伝わっている。
委員長	○ 報道によると、その子はすごく頑張ってテストの点数は良かった。
委員長	○ テストの点は良かったが、欠席という扱いをされて、単に不登校じゃないかという見方をされるとか。
委員長	○ それはちょっと不公平じゃないか、問題じゃないかということで、裁判になるということも報道されていたが。
塩田委員 教育支援担当課長	○ 1ページの網掛けの意味は何か
塩田委員	○ 網掛けしたところは非常に割合の高いもので、岡山市の特徴といえる部分のもの。例えば(3)不登校が継続している理由でいうと、小学校では「不安など情緒的な混乱」による理由が非常に多いが、中学校になると「あそび、非行」が増えたり変化が見られる、その辺りが岡山市の特徴かなと思える。
教育支援担当課長 塩田委員 委員長 教育支援担当課長 塩田委員 曾田委員 教育支援担当課長 教育長	○ この案は誰に向けた文章になるのか。この「在り方について」という冊子は誰に向けたものか
塩田委員 委員長 教育支援担当課長 委員長 曾田委員	○ 事務局としてこの在り方について案をまとめ、この会で承認を得たい。
	○ 承認を受けた段階で案が取れて、誰かの手に渡すというものか。
	○ 全市民に広めていくものか。
	○ そうではない。
	○ 教育委員会の中の資料としてということか。
	○ 市民文教委員には。
	○ 市民文教委員会には9月議会でこの資料の説明をしている。
	○ 市民文教委員会でも意見をいただき、そしてこの場の意見も交えて修正したものでこれでよいかということになる。最終的には整備する段階でこういう方向でやりますということになる。
	○ 一般の方が見るならば網掛け部分の説明も必要である。
	○ 岡山の特徴といった部分は原因があるのか、現象把握の段階か。
	○ 今は現象把握の段階、そのこの部分の分析は更に細かい調査が必要。
	○ 岡山県人だが良く分からない。
	○ 岡山の特徴ということ言うと、いじめはたくさんあるけど解消もたくさんしている。だから先生たちががんばっているのではないか、発見もうまくできているのではないかという流れで考えるが、不登校の原因がどこかとなると、いじめだけではいけないので解決が難しいと思う。
塩田委員	○ 1ページの相談した機関で、中学校が「在籍の教員にのみ」が42.2%で、これでは教員の負担が大きいのではないか。大学でメンタルヘルスが盛んに言われるのは、教員はつなぐ役目で、次の機関を紹介しないとその相談された教員自身がメンタルになりかねないということ。教員はあくまで窓口であって、次のスクールカウンセラーや養護教諭につないでいくというシステムを作って行かないと、教員の負担は大きい。保健所とか病院であるとか医療機関への相談が少ない。中学校がすごく少なく、つながっているのかなと思う。つなぐシステムをぜひ考えて欲しい。
教育支援担当課長	○ そこが大きな課題だと思う。なかなかつなごうとしてもつなぎにくい状況があり、難しいと感じている。
委員長	○ 新聞にもあったいじめに係る緊急調査の項目を見ると、一人で先生が発見した時に一人で抱え込まずに相談できるような体制があるかないかという問いがあったが、一人で抱えてとなるとしんどい。生徒がそういうところに行かないのは生徒の問題で仕方がないが、先生が信頼できる方に相談できるという体制は何かあると負担は楽になると思うがその辺りは。
教育企画総務課長	○ 教育相談室にも先生からの相談は実はたくさんある。先生も相談できるようにしているが、最も相談するのは職場の上司、仲間、担当の先生への相談が一番多いのではないかと思う。
曾田委員	○ 数字が挙がっているのは、相談した子どもたちの件数や機関は出ているが、保

<p>教育支援担当課長 曾田委員</p>	<p>護者の数値はないのか。  <input type="radio"/> 保護者のものはない。  <input type="radio"/> 不登校を解消するのは背景のほうが強いのではないかと思うので、その辺の実態把握は必要。スクールカウンセラーに不登校の保護者を集めて、1年に何回かカウンセリング的なことをして好転した例がある。学校に配置されているスクールカウンセラーがコーディネートして、子どもではなく保護者とつながるという方法も有効ではないかと思う。</p>
<p>委員長 委員長 全委員 委員長 委員長</p>	<p><input type="radio"/> 他にないか。  <input type="radio"/> 第27号議案を原案どおり可決してよいか。  <input type="radio"/> &lt;承認&gt;  <input type="radio"/> 第27号議案は原案どおり可決する。  <input type="radio"/> 以上で公開議案の審議はすべて終了する。</p>

傍 聴 の 状 況		
報 一	道 般	1 名 0 名

平成24年10月 岡山市教育委員会定例会（非公開） 会議録

1 開催日	平成24年10月23日（火曜日）		
2 開会及び閉会	開会 15時15分		
	閉会 16時15分		
3 出席委員	委員長	渡辺勝志	
	委員	塩田澄子	
	委員	曾田佳代子	
	委員（教育長）	山脇健	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	水野博宣	教育次長	橋本拓治
統括審議監	鈴木康義	審議監（学校教育担当）	福島治子
審議監（生涯学習担当）	直本正明	教育企画総務課長	長瀬尚樹
学事課長	山本孝治	文化財課長	乗岡実
事務局（教育企画総務課課長補佐）	高木宏		
5 議題及び結果			
第28号議案	文化奨励賞の受賞者の決定について		原案可決